

小学5年2組 体育科学習指導案

指導者 三島 康 紀

1 題材名 どこでアウトにするか考え、チームで協力しよう！

～ならびっこベースボール～

2 題材のねらい

作戦ボードや自分たちの守備映像をもとに、「どこで」アウトをとればいいかを考えることを通して、打球に応じて自分の役割を選び、動き出す力を養うことができる。

3 授業の構想

(1) 6月に走り高跳び(全6時間)の学習を行った。以下に示すふりかえりは、第2時に、記録会を行った後、現時点で考える動きのポイントについて書かれたふりかえりである。

- 振り上げ足を高く上げるといいと思う。(A児)
- 足を伸ばして、おしりより高くするといい。(B児)
- ふみきを強くしたい。(C児) ○背中から身体を上げるようにするといい。(D児)

先に挙げたふりかえりから、子どもは、走り高跳びの動きのポイントを様々な視点から考え、自分の言葉で表現していることがわかる。次時には、「振り上げ足を高く上げる」ために必要な動きを考え、試行してみることをねらいとして学習に取り組んだ。子どもは、友達と動きを見合う活動を通して、振り上げ足の動きのポイントを考え、その動きを習得しようと何度も試行するとともに、「振り上げ足」を高く上げる動きにつながる動きのポイントを考える姿が見られた。学習が進むにつれて、「振り上げ足」から、「助走」、「ふみきり」の動きのポイントを考え、技能を高めることができた。このように、多様な見方で動きのポイントを考えることができ、学級全体で学び合うことで、より思考を深め、技能を高めることができる子どもである。

本学校園体育科・保健体育科として考える身に付けさせたい資質・能力の一つに、「技能構造を追求し、考える力」がある。本単元の中でも、「もっと得点をとりたい」「得点をとられないよう、守りがうまくなりたい」というような思いをもつであろう。基本的な技能を高める活動やタスクゲームを通して感じた動きのポイントを考えられるはたらきかけをすることや、学び合いの場を設けることで、さらに動きの高まりを目指して活動する子どもの姿を引き出すことができると考える。

本単元では、ならびっこベースボールを題材とする。本題材「ならびっこベースボール」は、ボール運動領域におけるベースボール型のゲームである。攻撃と守備で交代を行い、チームで協力しながら勝敗を競うことが楽しい運動である。今回は、打者がボールを打つ代わりにボールを投げることにする。攻撃側は、人のいない場所をねらってボールを投げ、多くの得点を入れることに楽しさがあり、守備側は、打者をアウトにし、得点を入れさせないようにするところに楽しさがある。

子どもは、まず初めに、ボールを思いっきり投げて得点をとる楽しさを感じるであろう。その楽しさを追求していくことで、「遠くに投げたい」「強いボールを投げたい」という願

いをもち、自分の身体をどのように動かせばいいのか、動きのポイントを見つけようとする思いが高まるであろう。

また、ボールを投げる（得点をとる）技能が高まるにつれて、守備への意識が高まり、相手をアウトにする楽しさを感じる子が増えてくると考える。相手の得点を防ぐためには、「どこで」アウトにすればいいかを考えることが大事である。アウトにするためには、守備側には、様々な役割が必要となる。打球に応じて、役割を決め、チームで協力して動くことができるようになることで、ゲームの楽しさをより味わうことができる教材である。

(2) 本単元を通して、最終的に子どもには次の力を身に付けてほしいと考えている。

打球に応じて適切な役割行動（チームプレイ）を判断して動き出す力。【守備】

このような力を身に付けるために、以下の手立てを行う。

○攻守両面を、系統的に力を付ける授業づくり

ならばっこベースボールは、攻守交代制であり、攻撃、守備それぞれ身に付けさせたい力は異なる。本単元においては、単元を通して基本的な動きの習得を図りつつ、単元の前半には、「ねらう場所を決めて、その場所に投げる力」を高めることに、単元の後半には、「打球に応じて適切な役割行動を判断して動き出す力」を高めることに重点をおくこととする。そうすることで、子どもは、攻守それぞれに自己の課題を見つけ、こういった動きをすればいいのか考えて学習を進めることができると考える。

○子どもが気付きを獲得する学び合いの工夫

子どもたちは、試しのゲームやタスクゲームを行う中で、チームが強くなるために大切なことは何かを考えるとされる。そこで、ゲームを終え、チーム内で作戦タイムを行う際、チームで大事なことを書き込むことのできる「マイチームテキスト」を使うことを提案する（図1）。このマイチームテキストは、攻めるとき、守るときの2項目毎にわけて書き込むものである。単元を通して活用するよう促すことで、マイチームテキストに書かれた内容が増えていくとともに、攻撃・守備への思考の深まりを感じる内容となることを考える。

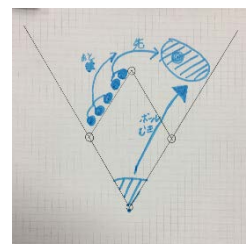


図1 マイチームテキスト

4 単元展開計画（全8時間 本時 6／8）

次	時	主な学習内容	◇願う子どもの姿
1	1	○試しのゲームを行う。（2時間） ・投げる、捕るなどの動きを確認する。	◇もっと得点を取りたいという思いをもつ姿 ◇チームの仲間と協力するといいなと感じている姿
	2	・攻撃はボールを投げることを確認して、試しのゲームを行う。	◇どうしたら得点がたくさんとれるのか現時点で考えている姿
2	3	○ボールを投げるとき動きのポイントについて考える。 ・考えた動きのポイントを試してみる。	◇体の部位を用いて、動きのポイントを表現しようとしている姿
	4	○攻撃するときどの場所をねらったらよいか考える。 ・ねらう場所について、考えを確認する。 ・自分の考えを試すゲームを行う。	◇自分のねらう場所を作戦ボードに書き込み、その理由が言える姿 ◇ねらう場所について理由も合わせて、自分の言葉で表現できる姿
3	5	○守るときの動き方について考える。 ・守りの上手なチームの映像を見て、守りのポイントを考える。	◇その場所に集まる人などの守備の役割がわかる姿 ◇作戦ボードを用いて、守りの役割分担を考えている姿
	⑥	○守るときのチームのやくそくを作り、確かめる。 ・やくそくにある動きを確かめるゲームを行う。 ・ゲームの中で考えたことを学級全員で確認する。	◇守りのやくそくで確認したチームの動きを行っている姿 ◇打球に応じて自分の役割を判断している姿 ◇自分の考えを仲間に伝えている姿

4	7 8	○これまでの学習を生かし、リーグ戦をする。 ・打球に応じて自分の役割を選び、守る。 ・単元全体のふりかえりを行う。	◇チームで協力して攻撃、守備を行うことの気持ちよさを感じている姿 ◇友だちの頑張りを認めている姿
---	--------	---	---

5 本時の学習

(1) ねらい

作戦ボードで話し合う活動や守りの動きを映像で確かめる活動をもとにして、とられる得点を少なくするために大切な動き（チームのやくそく）について、確かめることができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と評価（※）
<p>1. パワーアップタイムを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とんとんスロー ・パートナーズスロー（ゴロキャッチ） <p>2. 前時のふりかえりを聞き、本時のめあてを把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打球が遠くに飛んだときの動き方がわかった。 ・ゲームの中で試してみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕る動き、投げる動きを正確に行うよう声かけする。 ・20秒間で10回できることを目指すことを確認する。 ・本時のめあてに迫れるような前時のふりかえりを紹介する。 ・「捕球する」「アウトにする場所で捕球する」「アウトにする場所に集まる」といった守りの役割があることを学級全体で確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>相手の得点を少なくするための「チームのやくそく」は有効なのか、ゲームの中で確かめよう。</p> </div>	
<p>3. チームのやくそくを確かめるゲームを行う。</p> <p>(1) ゲームを行う。</p> <p>○1ゲーム1イニング制で行う。</p> <p>(2) 考えたことを学級全員で共有し、2度目のゲームを行う。</p> <p>(予想される考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どこで」アウトにするのか迷ってしまいいかなか指示が出せない。 ・ボールがどこに飛んだかで判断するのが難しい ・動き方がわかったけど、すぐに動けない。 <p>(3) 2つのゲームを通して考えたことをチームで確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コート右側に飛んだ場合はこうしよう。 ・「どこで」をいう人は思いきって言おう。 ・ボールをとる人の名前を言うのはよい。 <p>4. 「チームのやくそく」が上手くいったかどうかふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どこで」の指示を出す人が決まったから、相手によけいな点をあげることがなくなった。 ・「どこで」アウトにするのかを考えることが大事。 ・自分の仕事ができるようになった。 ・打球によって守り方が変わるから、みんなでもっと相談したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動きの役割分担ができている姿を見つけたら、そのよさを具体的に認め、周りの子どもにも伝わるようにする。 ・「チームのやくそく」をもとに動いているチームの映像を紹介し、そのチームの考え方を掘り下げる。そして、動きのよさを守りの役割の言葉を用いて、学級全員で確認する。 ・自分たちがどう動いているか客観視できるよう、動画撮影を行い、動画をもとに自分たちの動きを確かめるよう提案する。 ・一番心に残った場面にしぼって、映像を見ることを確認する。 ・自分たちの考えの変容がわかるよう、作戦ボードに色を変えて、チームの考えを書きこむことを伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;">——— 評価の観点【思考・判断】 ———</p> <p>チームの話し合いや映像を見て感じた動きをもとにして、打球に対してとられる得点を少なくするための動きを考えている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 ノート 作戦ボード】</p> </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「チームのやくそく」を確かめてみて、新たに気付いたこと、考えたことについて、ノートにまとめるよう声かけをする。 	